

薩摩硫黄島の火山活動* —1998年10月～1999年1月—

Volcanic Activity of Satsuma-Iojima Volcano —October 1998—January 1999—

福岡管区气象台
鹿児島地方气象台

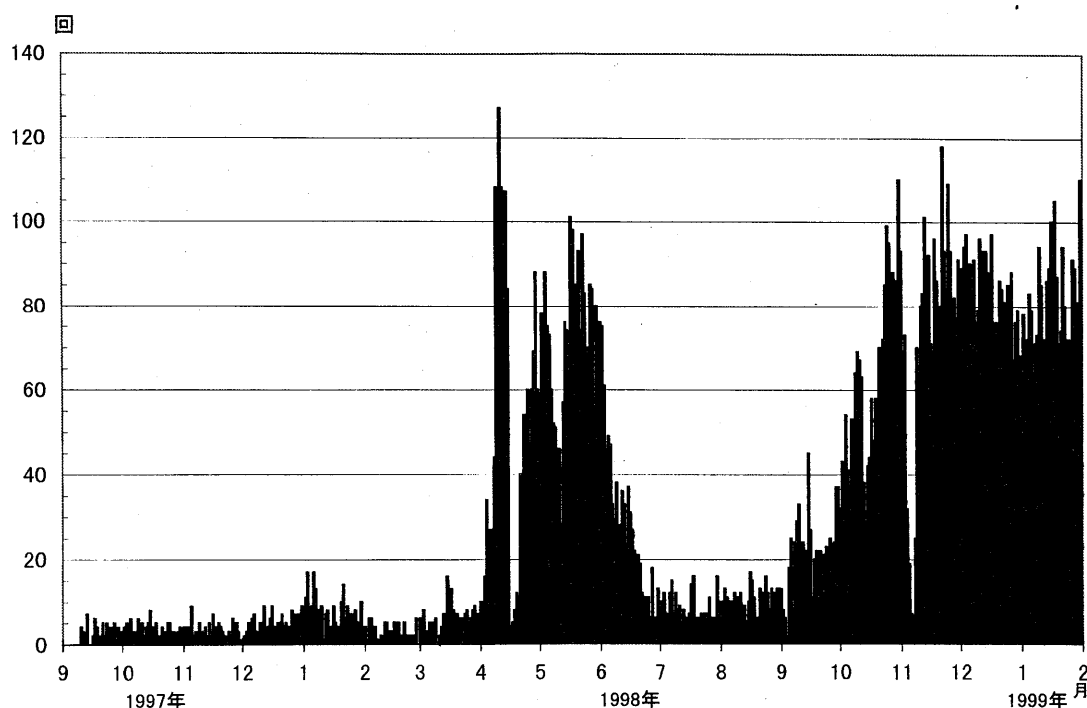
Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA
Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

薩摩硫黄島の、1998年（平成10年）10月から1999年（平成11年）1月にかけての活動状況について、福岡管区气象台が行っている火山機動観測（基礎調査）の結果等に基づいて報告する。

1. 震動観測

第1図に1997年（平成9年）9月以降1999年（平成11年）1月31日までの日別地震回数を示す。地震回数は1998年（平成10年）9月から再び増加し始め、11月上旬に一時減少したが、10月下旬以降1日あたり80～110回程度で推移した（地震回数はSIOA点での上下動成分の半振幅が0.7mm以上のものを計数としている。）。

また1999年1月23日23時頃から28日夕方にかけて振幅の小さな連続微動を観測した。しかし、表面現象や地震回数



第1図 薩摩硫黄島の日別地震回数（SIOA点）（1997年9月10日～1999年1月31日）
Fig. 1 Daily number of volcanic earthquakes at Satsuma-Iojima volcano.
(Point SIOA : 1997. 9. 10—1999. 1. 31)

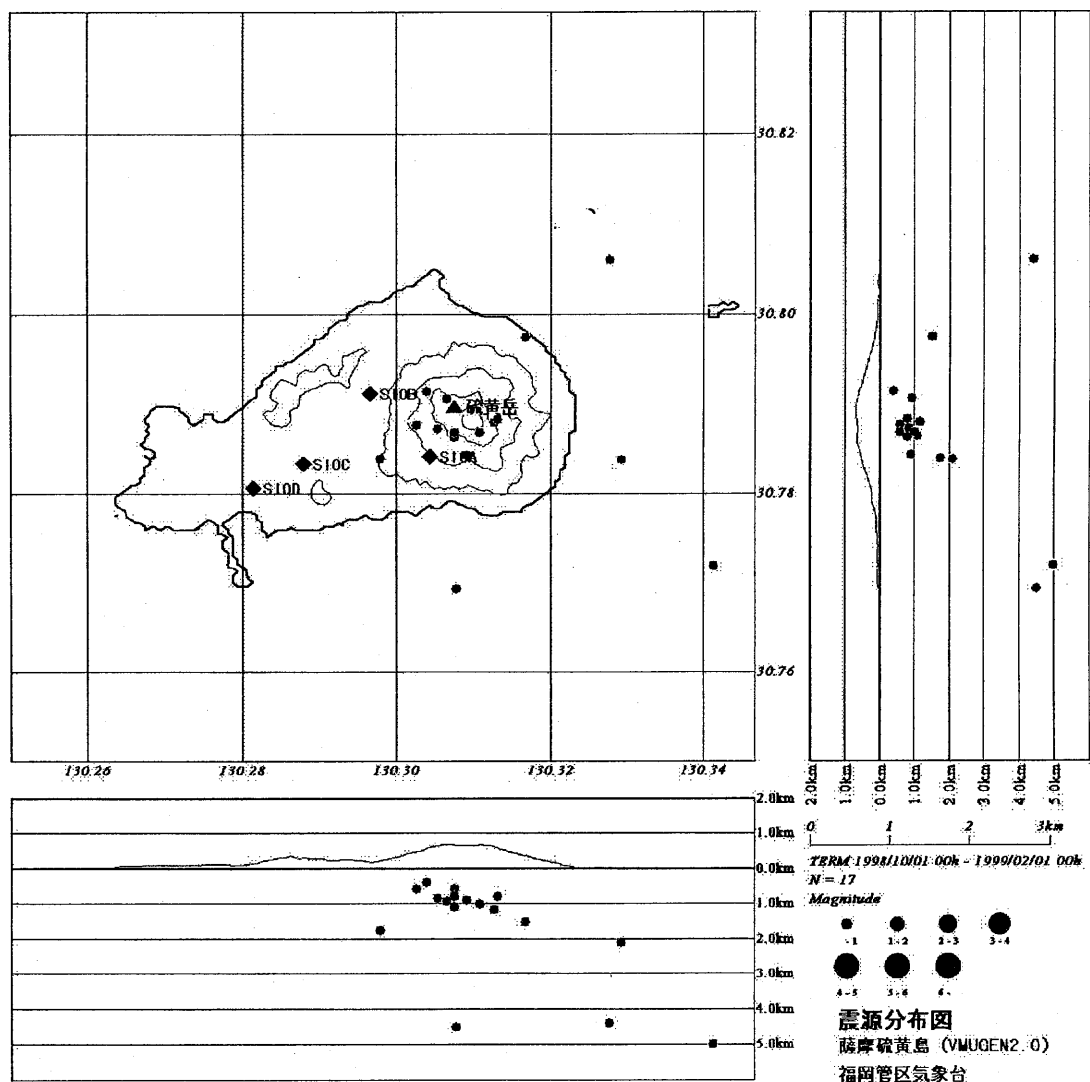
* Received 12 May, 1999

に大きな変化はなかった。

第2図に震源分布図を示す。波形の位相が読みにくい地震が大部分で震源決定された地震は少ないが、震源は山体直下周辺に分布している。

2. 降灰の状況等

鹿児島県中央警察署硫黄島駐在所によると、1998年10月に少量の降灰があった模様である。また、三島村役場によると、1999年1月24日に少量の降灰が確認された。



第2図 震源分布図 (1998年10月1日～1999年1月31日)
速度構造モデルは、P波速度2.0Km/sの半無限構造を用いた

Fig. 2 Hypocenter distribution of the volcanic earthquakes under the Satsuma-Iojima Volcano,
1 October 1998 to 31 January 1999.